第１回　宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

腫瘍センター事務局

平成２５年６月１日（土）に第１回　宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部霜仁会館で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、保健師、ＭＳＷ、ケアマネージャーの方々を含めて７７名参加されました。

当院の吉野茂文副腫瘍センター長を司会として、各施設より事例提示があった後、ディスカッション形式で全体討議を行いました。

事例１：大学病院から緩和ケア病棟へ

「緩和ケア病棟での治療を行いながら入退院を繰り返された症例」

山口大学医学部附属病院 放射線科　小林大河先生

山口宇部医療センター 緩和ケア内科　片山英樹先生

事例２：大学病院から地域の病院へ

食道がん化学療法後、様々な偶発症対し1つ1つ治療を行った症例」

山口大学医学部附属病院 第二外科　兼清信介先生

セントヒル病院 消化器内科　浜辺崇衣先生

事例３：大学病院から在宅緩和へ

「できるだけ家で生活したいという思いを在宅で支援した症例」

山口大学医学部附属病院 産科婦人科講師　村上明弘先生

やまもとクリニック院長　山本光太郎先生

参加者からは、「1症例ずつ、入院から永眠まで経過的に報告され詳しく分かった」「他病院、在宅医療の取り組みが分かって良かった」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事終了することができました。

